

5. 1969年母船式サケ・マス漁業操業概況

(主に列島南の漁海況)

吉原英吉(日本水産株式会社)

1. 海況, 気象

1958年以降各年の5月下旬50m層水温を比較すると、(1958年以降10ヶ年平均水温に対する各年の偏差で比較)1966年以降の低温傾向が目立ち、特に1969年の西側漁場の水温は1958年以降の最低値を示している(第1図)。

各年の水温のパターンは、北高南低型、南高北低型、東高西低型等に特徴づけられるが、主漁場は、低温域と高温域の境界線周辺が中心となり、特に正偏差域と負偏差域の傾斜の急な場合に漁況が良い。1969年は冷水が東にのみ、漁場は東偏し、5月下旬の東カム系ベニ漁場を除き、漁場はアツ島南沖から列島南沖合が漁期前半の主要漁場となった。

気象状況は、1969年は低気圧の活動が活発で、5~6月に漁場中央を東進・発達する低気圧が集中し、水温の上昇を阻げ、操業のロスと漁期の遅れを招き、漁況不振を助長した。

北洋の気圧配置の近年の傾向は、極の寒気の勢力が極めて強く、1968年は北の寒気圏内に漁場が覆われて、漁場の気圧配置が北高南低型という特異な年となり、水温も極めて低かった。1969年はアリューシャン低気圧が発達し、一応南高北低型であつたが、極の寒気の勢力は最高であり、しかも5月迄持続した。一方太平洋高気圧は、近年年々南下、弱まる傾向があり、1969年は近年の最低であつた。従つて低気圧は漁場中央部を通過し、漁場西部海域へ寒気の流出が多かつた。

2. 列島南の漁況

5月下旬

初投網は例年通り中央漁場に全船団が固まつたが、異常低水温のため、北側の東カム系ベニ漁場以外は漁況不振で、一部船団を除き、船団はプリストル系ベニの出現を期待して、遂次東側列島南漁場へ移動、操業を行った。

6月上旬

前旬好調だつた東カム系ベニ漁場も魚群の北上と共に不振となり、操業は西側低温域をさけて、170°E 以東海域が主体となった。50°N 以北の列島周辺は、濁水の張り出しが顕著で、特に44年は広範囲に分布したため、漁場はこの濁水の南縁にそつて50°N 以南に東西に細長く形成された。プリストル系ベニは期待された程の出現を見ず、特に豊漁を期待した40年級群の4<sub>2</sub>魚群は母船式海域へ来遊しなかつたため、175°W 線にへばりついた一部船団が、5<sub>3</sub> 6<sub>3</sub>群のプリストル系ベニを漁獲したにとどまり、漁況は一部東カム系ベニ・シロの残りと、西カム系ベニ・

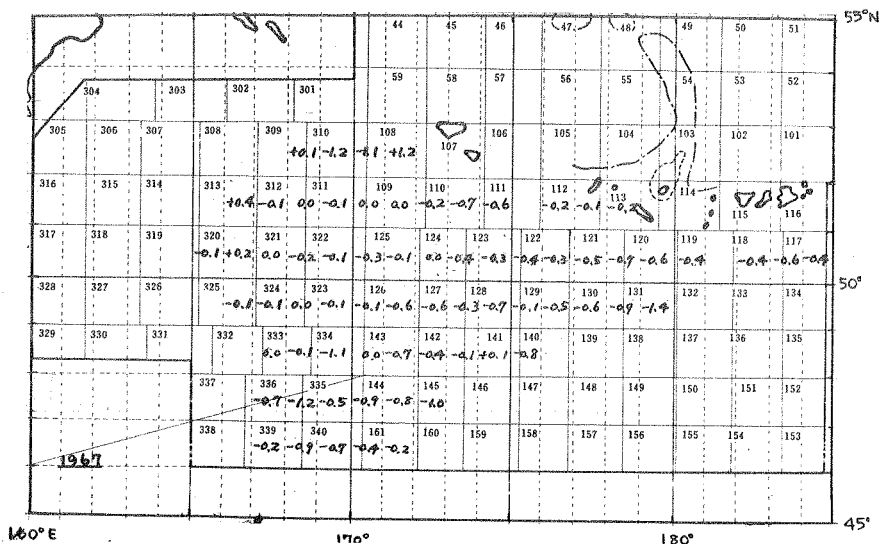
シロマスのけしりの魚群を対象とした低調な漁況であつた。

6月中旬

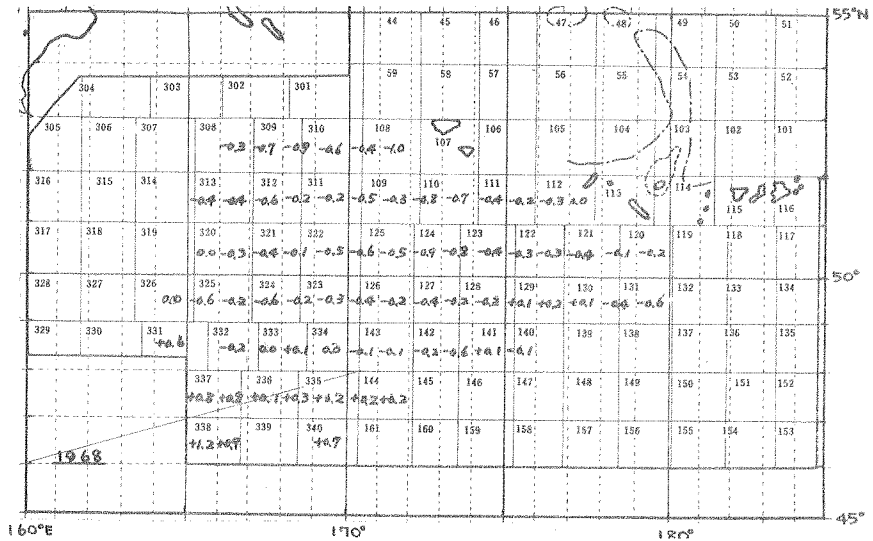
50°N 以北の濁水中にベーリングへ北上する大型シロの分布が見られるようになり、その南には東カム系のマスが出現し、本旬前半漁況は活発であつたが、6月15日～17日に漁場を通過した大時化を境に北側のシロもベーリングへ移動、本旬後半から主漁場はベーリング海へ移つた。

3. 要 約

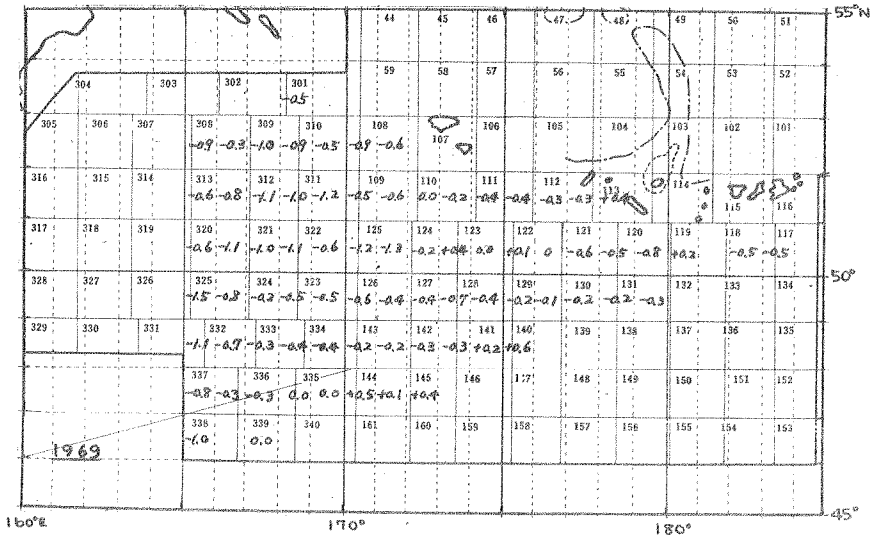
- (1) 水温、特に170°E 以西海域は、33年以降最も低温であつた。
- (2) 漁場は西側低温域をさけ、170°E 以東列島南沖が前半の主漁場となつた。
- (3) プリストル系のベニの出現が少なかつた。
- (4) 列島南に広範囲にわたつて濁水が分布し、5月下旬～6月初めにかけてこの濁水中に魚群が全く分布しなかつた。
- (5) アリュージョン低気圧活動が活発であり、太平洋高気圧活動が近年の最低であつたため、漁期前半低気圧の来襲が多く、昇温がおくれ、漁期が例年より一旬以上もおくれた。



第1図—1 5月下旬における水温平年偏差(1967年)



第1図-2 5月下旬における水温平年偏差(1968年)



第1図-3 5月下旬における水温平年偏差(1969年)